

## 九重地区説明会 協議録

日 時	令和4年6月25日（土） 19:00～20:50
場 所	九重小学校 体育館
出席者	出山教育長・岡田教育部長・今井教育総務課長・庄司教育推進室長・藤本同副課長・小柴副主査（司会）
参加者	17人（保護者95% 地域住民5%）
記 者	なし（-）

### 【 概 要 】

- 教育長説明 5分
- 課長説明 50分
- 前日までの質疑応答の紹介 10分
- 質疑応答 30分（5名）

#### （学校再編全体の方向性に対する意見）

- 地域の意見として「どの学校と統合すべき」そこまでを考えると、地域意見を纏められない。  
→ 市としては、「統合するのか、しないのか」、「どの程度の学校規模に子供を預けたいのか？」そんな視点で、地域意見を纏めていくことが第一と考える。

#### （地区での組織立て方法に関する意見）

- 小規模校は、普段からPTAの負担が大きいため、組織を作り検討する際には、なるべく保護者の負担を軽減する工夫を行って欲しい。

### 【 個別議事録 】

#### （参加者A）

- ・ 複式学級は2学年で16人とあるが、その人数の定義は？

#### （庄司室長）

- ・ これは通常学級の人数で判断するため、特別な支援を要する子供に関しては、人数の基準には含めません。

（理由：次の会場からでの追加回答）

- 特別な支援を要する児童生徒は、学年を関係なく8名を上限にクラス編制を行います。そして、子供の特性に応じた「きめ細やかな指導」を行うため、通常学級とは別にクラス数に応じて教員が配置されます。このように、国の基準では、通常学級と特別支援学級の子供の人数を、重複してカウントできない制度となっているところです。

#### （参加者B）

- ・ 温水プール等までの児童の輸送方法は？

#### （藤本副課長）

- ・ スクールバスを活用しています。日中はスクールバスの空きがあるため、それらを有効

活用しているところです。

(参加者 A)

- ・ 近年、学校施設の建替えを行った房南小学校、神余小学校について、どのような経緯があったのか？

(藤本副課長)

- ・ 房南学園ですが、神戸小学校と富崎小学校を統合した際に、小中一貫教育を目指した学校づくりを行うため、房南中学校の同一敷地内に房南小学校の機能を入れるため建設したものです。

市内には、小中一貫教育を行う学校は房南学園のみであるため、学区外からその教育を希望する保護者がいる場合、その理由であれば指定校変更を認めているところです。

(今井課長)

- ・ 神余小学校ですが、その当時から学校統合の議論もあったところですが、それらの意見は纏まりませんでした。一方で、校舎が木造建築物であり危険性があったため、子供の安全を考えた中で建替えを行ったところです。

なお、校舎の設計についても、後々社会教育施設に転用できるような造りの校舎とし建築を行っています。

(参加者 C)

- ・ 学校再編が行われた場合、その時期は、いつ頃を想定していますか？
- ・ 九重小学校ならば、市としてはどこを統合すべきか？と考えていますか？

(藤本副課長)

- ・ 資料の36頁の下段に、スケジュールを記載しましたが、2年後の令和6年度中に、全市的な再編計画を決定する予定です。その後、統合する学校において「統合準備委員会」を立ち上げ、学校施設の改修の必要性、登下校に関する検討（スクールバスの運用、通学危険個所の把握～対策）、学校運営上の方針・ルールの違いの一元化、子供達への心のケアへの対策などの決定と、それらの実行に2年程度を要することを想定しています。

よって、現時点では、令和9年度から、市内全域で再編後の新たな枠組みでの学校運営を行うことを目指していますが、それらについても、これからの地区との協議の中で変わってくる可能性も十分考えられるところです。

- ・ また、市では、どこをどこを統合すべきとの原案は、今、持っていません。これから地区との協議の中で、共に考えながら決定していくものと考えています。

(参加者 A)

- ・ 統合した場合、統合後の学校施設を改修する予定は？

(藤本副課長)

- ・ 統合後の運営場所によりますが、現実的に、各学校では少子化により空き教室が多々発生しています。よって、施設の改修が少なく済む場合も考えられますし、仮に大掛かりな改修が必要となった場合、必然的に統廃合の時期が、1年程度後ろにずれることも想定されます。

いずれにせよ、どのような統合が行われ、どの施設を利用するかによって変わってくるものと認識しています。

(参加者 A)

- ・ 各地区で2年かけて検討するのは、どこを統合したいのか？それを考えるのか？

(藤本副課長)

- ・ まず、各地区で考えていただきたいのは、保護者・地区の意見として、まず自分たちの子供を、どのような学校規模で学ばせたいのか、それを考えて頂きたい。

複式学級となる学校規模でも良いと考えるのか

それとも市が示した最低ラインである1学級15人規模、小学校全体で90人規模が良いのか

クラス替えが出来る学校規模で、子供を学ばせたいのか

それらについて、保護者の皆さま、地域の皆さまの意見を纏めて頂きたい。

この議論を市内10地区において、同時並行で行い、それぞれの地域の意見を含めて、次のステップで、ではどのような再編プランがあるのか、再度有識者や保護者代表などからなる、「学校再編調査検討委員会」のなかでプランニングを作り、それらを地域の方々へフィードバックしていきたい、そのように考えています。

(参加者D)

- ・ 各学校の法定耐用年数の経過年数等が記載してあるが、この九重小学校の校舎も、法定耐用年数に近づいているが、施設は問題がないのか？

(藤本副課長)

- ・ 法定耐用年数とは、その年数が経過した場合に直ぐ危険性が高まるのか、と言ったらそうではなく、あくまで、国が減価償却資産としての価値を算出するため定めている年数であり、建物の寿命とは異なります。

例えば、古いマンションや木造アパートであっても、木造建築物の耐用年数は22年となっていますが、適切にメンテナンスを行えば、住みよい住環境を保てるのと同じく、適切な維持管理を行うことで、建物の寿命を延伸させることが出来ます。

現に、この九重小学校の体育館も法定耐用年数を既に経過していますが、大規模改修を行い、今でも安全安心に使っています。

(参加者D)

- ・ それでは、九重小の校舎はまだ使えるが、今後改修はしなければならない？

(藤本副課長)

- ・ 確かにそのとおりです。この九重小学校の校舎は、近年、耐震改修は実施しましたが、内部での経年劣化は進行しており、今後、大規模改修が必要となってきます。

公共施設を適切に管理運営すること、中央高速自動車道の笹子トンネル事故で多数の命が失われたことも記憶にあるかと思いますが、学校を残すのであれば、適切な維持管理は必須事項であり、校舎は主にRC造（鉄筋コンクリート）ですが、現在は長寿命化改修の手法により施設の耐用年数を延伸するなどの技法もあるところです。

(参加者D)

- ・ 館山市の財政的に、どのぐらいの学校数なら大丈夫？そういう試算は？

(藤本副課長)

- ・ 仮に、市内10地区全ての地域で「学校を残したい」との意見であれば、再度、市としてはどうしたらよいのか、について考え直さなければいけない課題です。

今後、益々少子高齢化が進み税収が減少し、医療・介護に要する市民負担が増加するなか、持続可能な行政サービスを続けていくためには、市民皆さまに直結する学校以外の行政サービスを見直すことが出来るのか、それらを今一度、考え直さなければいけないと思っています。

よって、市としてどのぐらいの学校数にすべきといった数値は持っていません。

(参加者 E)

- ・ 地域で検討する組織を立ち上げるため、再度説明会を行うのか？

(藤本副課長)

- ・ これから今の保護者の方々、未来の保護者の方々と、どのような組織を作って議論をすべきなのか、まず、話をさせて頂いて決めていきたい。

例えば、現在の小学校の保護者、特に一番直結してくるのは、小学校低学年の保護者の方々かと思います。それらの方々から代表で3名～5名、それから、これから小学校にお子さんを入学させる、今幼稚園やこども園などに通わせている保護者の方々から代表で3名～5名、それから地域のコミュニティの方々からも3名～5名など、一つのイメージとしてはこんな感じも想定されると考えていますが、それらについても、これからPTAの方々とは相談させて頂いて決めていきたいと考えています。

(参加者 A)

- ・ 地域で意見を集約すると言っても、賛成・反対様々であり、難しいのでは？
- ・ また、PTAなりそれらの組織に入った人達の負担も膨大では？

(藤本副課長)

- ・ 各地域の組織の運営に、市が入ることも考えています。但し、市は来てほしくないとの意見もあるかと思しますので、それぞれの地域の考えを聞いたうえで、市としてどのようにその組織に関わっていくのか、それらに関しても相談の上、決めていきたいと考えています。

(今井課長)

- ・ 富崎小と神戸小学校の統合時の話ですが、「富崎小学校の学校再編を考える会」というのを富崎地区では作りました。その時も賛成派・反対派、様々な意見がありましたが、それでも最終的には、地区の意見としてまとめ上げていただきました。

喧々諤々の中でも、その時に決めた経緯は、富崎の子供達が神戸小へ体験学習というのを何回か行いました。その中で、神戸小から帰ってきた子供に聞くと、楽しかった！新しい友達も出来た！そういったことを「考える会」の人達が直に声を聞いて、やっぱりこれは・・・、と意見を纏めていったこともありました。

そんなこともありますので、まず自分たちの子供をどのような学校規模の学校に通わせたいのか、どこで統合をではなく、まずは「統合するのか、しないのか」、それを第一に考えて頂ければと思っています。

(参加者 A)

- ・ 仮にこのまま学校を残すとした場合、小規模校だけど、こんな学校教育を行うみたいなことを示してくれるのか？

(藤本副課長)

- ・ 地域として子供たちをどう育てていきたいと考えるのか、まずは、それをお聞かせいただきたい。例えば、神余地区は地区住民の大部分がPTA会員となっていて、地区全体で子供を見守り育てていくという考えがあります。そのように地域としての考えを聞いたうえで、市としては何が出来るのか、を考えていくべきだと思います。

(参加者 F)

- ・ 学校の統廃合により、国からお金の支援があるのか？ 南房総市のような・・・

(藤本副課長)

- ・ 南房総市は、市町の合併であり、それらには合併特例債といった国からの支援がありますが、あくまでそれらは、市町村合併によるものです。

※ 学校整備に関して、全国統一的な国庫補助基準はある。

(参加者 E)

- ・ 小さい学校は、PTAの負担も大きく、これから学校再編に関する組織を立ち上げたとしても、負担が少なくなるような配慮をして頂きたい。

(藤本副課長)

- ・ 私も小規模校での保護者であり、確かに心情は理解できるのですが、自分の子供をどのような規模の学校に通わせたいのか、この地域のこれからの子供達にとってどうすべきかについて、負担だとも思いますが、市と一緒に考えなければならないと思っています。